

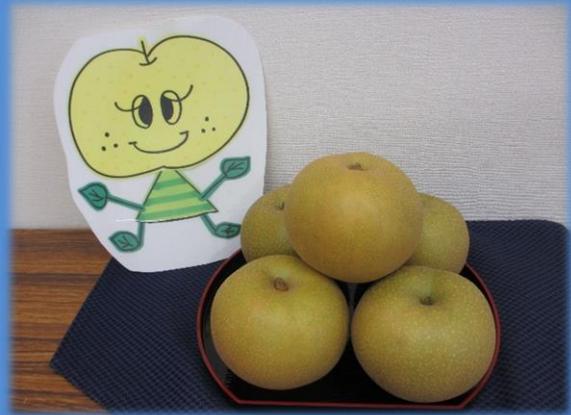
県中農林 ニュース

ひとつ、ひとつ、実現する ふくしま

第 29 号

令和 4 年 9 月 8 日 発行

編集・発行 福島県中農林事務所



須賀川市産のなし（幸水）

キャラクターの正体は編集後記で明かします

特集

○特集	P.1-2
○農林業関係の動き	P.2-7
○頑張る農林業者	P.7
○各部・各普及所の紹介	P.8
○新規採用職員の紹介	P.8
○お知らせ	P.9-10

3年ぶりのJAトップセールスが行われました！

当事務所管内のJA夢みなみとJA福島さくらは、コロナ禍の前まで、例年、各JA産の野菜や果物の販売促進と販路拡大を願い、京浜市場において、組合長や管内の市町村長によるトップセールスを行ってきました。

今年は、両JAとも新型コロナや自然災害に負けず、野菜・果物のおいしさを力強くPRしようと、3年ぶりにトップセールスを実施しました。当事務所からも参加しましたので、その概要を報告いたします。

【JA夢みなみ】

6月23～24日、横浜市内のホテルと横浜市中心卸売市場において、佐々木一成組合長をはじめ、岩瀬・石川・西白河地方の市町村長ほか関係機関が参加し、夏秋野菜等のPRが華々しく行われました。当JAの主力品目であるキュウリやトマト、そしてサインゲンささきかすなりは全国的にも大きな産地となっています。本年産は6月の降ひょうによる被害がありましたが、概ね生育は順調で、市場側を代表して「横浜丸中青果株」の後藤ごとう正明社長からも、「より一層の出荷量の拡大を望む。」との期待の声が寄せられました。



【佐々木組合長のあいさつ】

【JA福島さくら】

7月25～26日、東京都新宿区内のホテルと東京都中央卸売市場淀橋市場において、志賀博之組合長をはじめ、郡山市・田村地方・いわき市・双葉地方の市町村長ほか関係機関が参加し、夏秋野菜や日本なし等の果物のPRが行われました。初日の会議においては、JAの出荷先である国内主要市場の皆様からは、「産地力の維持・強化を!」との意見が多く寄せられ、JA・市町村側からは各種生産コストの上昇に起因する「販売要請価格の実現」を強く求める声が相次ぎました。



【集合写真（前列右から3人目が志賀組合長）】

コロナ禍前の通常のPRイベントでは、市場内の仲卸さんらへの旬の野菜や果物の試食宣伝が主でしたが、現在は試食が困難となっています。しかしながら、両JAの皆様の創意工夫あふれるPRにより、産地の熱意が消費地にしっかりと送り届けられたものと思います。

当事務所においても、引き続き、県中地域の農産物の消費拡大に積極的に取り組んでまいりますので、本ニュースをご覧の皆様のご協力を賜りますようお願いいたします。

農林業関係の動き（トピックス）

三春町のブルーベリーを全国へ♪ ふるさと納税返礼品の出荷式を行いました！

【田村農業普及所】

6月29日、三春町役場でふるさと納税の返礼品である三春町産ブルーベリーの出荷式が開催されました。

三春町には、計6か所のブルーベリーの観光摘み採り園があり、眺めが良い園内で、6月下旬より様々な品種のブルーベリーを楽しむことができます。その果実は、昨年からはふるさと納税の返礼品のひとつとなっており、大粒でジューシーなブルーベリーが好評となっています。



【出荷を喜ぶ生産者と副町長（前列左から2人目）】

三春町のブルーベリー生産者によって精魂込めて栽培・収穫された果実は、全国各地に向けて発送され、ふるさと納税での返礼は上限の100件に到達しました。今年は天候にも恵まれ、大粒で糖度が高い果実を出荷することができました。

福島県特定家畜伝染病対策県中地方連絡会議を開催しました！

【農業振興普及部・田村農業普及所・須賀川農業普及所】

6月30日、玉川村の県中央家畜保健衛生所において、令和4年度福島県特定家畜伝染病県中地方連絡会議を開催しました。

国、県、市町村、関係団体等の54名が出席し、高病原性鳥インフルエンザや豚熱など特定家畜伝染病の発生状況や特徴、発生した際の対応について確認しました。

特に豚熱は、令和3年10月に国内73例目が群馬県で発生して以降、11例続けて福島県の隣県で続発しており、警戒する必要があります。

今後も、関係機関・団体と連携し、防疫支援リーダー研修会や防疫演習等を実施し、初動防疫体制の強化を図ってまいります。



【担当者による説明】

県中地域新規就農者等担い手確保・育成連携協議会を開催しました！

【農業振興普及部・田村農業普及所・須賀川農業普及所】

当事務所では、これまでも新規就農者を確保するための取組を進めてきましたが、新規就農者確保・支援対策に一層取り組むため、今年度新たに「県中地方新規就農者等担い手確保・育成連携協議会」を設置しました。協議会には、県中管内12市町村、農業委員会、農業協同組合、(公財)福島県農業振興公社のほか、郡山・田村・須賀川各地方の指導農業士にも参加いただいています。



【意見交換】

6月30日に第1回の協議会を開催し意見交換を行ったほか、新規就農者確保に向けて、これまで以上に関係機関の連携を強化すること、就農希望者が研修を受ける認定研修機関を増やすこと、就農相談会を11月20日に開催することなどを確認しました。



生き物調査を行いました！

【農村整備部】

7月4日、「食・命の大切さ」、「農業・農村地域の大切さ」、「自然環境の大切さ」についての理解を深めるため、田村市立都路小学校5年生12名が、田村市を流れる南川で生きもの調査を行いました。アクアマリンふくしまの^{はるもとよしのり}春本宜範氏を講師に迎え、網の使い方を指導いただきながら、ドジョウ・カエル・アブラハヤ・コオイムシ・ヤゴ等たくさんの生き物を夢中になって採取しました。

採取後の生き物観察では、講師から、採取した生き物の名前、特徴、名前の由来といった様々な話がありました。採取したカエルのうち、ツチガエルは全国的に数が減っている貴重なカエルですが、田村市には、まだたくさん生息しているとの話もありました。

また、講師が持参したゲンゴロウとタガメも見せていただき、児童たちは、興味津々で耳を傾けていました。



【生き物採取】



【生き物観察、解説】

J A福島さくらたむら地区夏秋野菜出荷式が開催されました！

【田村農業普及所】

7月6日、田村市船引町のJ Aそさいセンターで令和4年度夏秋野菜出発式が開催されました。5月後半から6月前半にかけての低温と降雨、6月の降ひょうの影響により、ほとんどの夏秋野菜において出荷開始に7～10日程度の遅れがみられました。しかし生産者の皆様の努力もあって、各品目ともほぼ順調に生育し、7月半ばには本格的な出荷となりました。

式には、J A園芸部会役員、J A役職員、J A全農福島、各運送会社、田村農業普及所職員等、約40名が参加しました。生産販売目標必達と無事故輸送を祈願して、テープカットが行われ、出発を祝いました。

令和4年度は、ピーマン5.7億円、さやいんげん1.65億円、トマト1.6億円等、野菜全体で10億8千万円の販売を目標に、京浜市場を中心に県内市場等にも出荷されます。



テープカットにより出発を祝いました
左から、田村農業普及所矢吹所長、J A福島さくら^{やまだ}山田常務理事、J A福島さくらたむら地区園芸部会大友部会長、J Aパールライン福島^{さとう}佐藤代表取締役社長、J A全農福島管理部郡山地区担当部佐藤部長

東京 2020 選手村交流施設で使用された県産木材を再活用します！

【森林林業部】

7月8日、東京2020オリンピック・パラリンピック（以下、「オリパラ」）の選手交流施設「ビレッジプラザ」で使用された県産木材が郡山北工業高校に譲渡されました。これは、県が大会組織委員会の「日本の木材活用リレー ～みんなで作る選手村ビレッジプラザ～」プロジェクトの理念を引継ぎ、次世代に誇れる遺産（レガシー）を創出するため、オリパラ終了後に返却された木材を町村や県立高校等に角材や木製ベンチ等に加工して譲渡する取組です。

今回は、^{うえののりお}上野徳夫県林業振興課長から郡山北工業高校の生徒達に、福島県郡山地区木材木工工業団地協同組合で加工された角材67本とベンチ5基が譲渡されました。譲渡された角材は3年生の課題研究として資材保管倉庫や家具に加工され、校舎内に設置されます。

今後は、県内各自治体の交流施設でもベンチやサイクルスタンド等に加工し設置される予定です。



【角材とベンチが譲渡されました】



【記念焼き印（写真上：角材、写真下：ベンチ）】

グリーン・ツーリズム視察交流会を実施しました！

【企画部】

7月19日、石川地方グリーン・ツーリズム推進協議会（事務局：当事務所企画部）が、グリーン・ツーリズム視察交流会を開催し、会員17名が、二本松市の農家民宿遊雲の里、^{せいほうえん}農家民宿清峰園、あぶくま高原岩代りんご菊地果樹園を訪れました。

まず、^{ぬのさわ}布沢棚田を見学しました。地域で協力してビオトープを作り、子供達の生き物観察会を行っている点を見習いたいとの声が聞かれました。その後、農家民宿遊雲の里で、グリーン・ツーリズムに関する取組について学びました。

次に、農家民宿清峰園で採れたての自家製野菜を使った昼食をいただきました。古民家の雰囲気やうまく活かしている素敵だとの感想が寄せられました。

あぶくま高原岩代りんご菊地果樹園では、りんごを使った加工品についての話を聞き、素材を活かした加工を見習いたいとの声が聞かれました。

この視察交流会を通してグリーン・ツーリズムの受け入れ体制が更に強化されることが期待されます。



【布沢棚田 ビオトープ見学】



【農家民宿清峰園 見学・昼食】

「県中地方フラワーネットワーク」を設立しました！

【農業振興普及部・田村農業普及所・須賀川農業普及所】

県中地方には魅力ある花き品目が多く存在する一方、地域の消費者にそのような情報が十分に伝わっていませんでした。

こうした課題を踏まえ、当事務所では、地元産花きの認知度向上や地域内外での花き利用の促進を図っていくため、花き農家、JA、生花店、花き利用施設が一体となった「県中地方フラワーネットワーク」を7月21日に設立しました。



【県中地方フラワーネットワーク設立総会】

ネットワーク設立を契機として、生産者を始め関係者相互の連携を一層深め、県中地方の花きの魅力が多くの方々に広く発信されるよう取り組んでまいります。

ネットワークの具体的な活動のひとつとして、9月5日に地域の代表品目のユキヤナギ等を対象に、生花店等が参加する現地研修会を開催し、情報交換を行うこととしています。

鳥獣被害対策研修会を開催しました！

【須賀川農業普及所】

近年、須賀川農業普及所管内においてイノシシ被害が増加していることから、イノシシの生態と被害対策の理解を深めるため、7月29日に管内農業者を対象とした鳥獣被害対策研修会をたまかわ文化体育館において開催しました。講師として、かさなりデザイン合同会社の鈴木淳様すずきあつしをお招きし、①イノシシの生態、②総合的な被害防除対策、③電気柵の設置管理の注意点等についての講演を頂きました。また、令和3年度から玉川村山小屋地区に設置している

「総合的な鳥獣被害対策のモデル集落」の活動についての紹介も併せて行いました。

参加者からは、イノシシの生態や被害対策についての質問や、地域での対策が重要といった意見が活発に出され、有意義な研修会となりました。この研修会で得た知識を今後の適切な鳥獣被害対策につなげて欲しいと思います。



【熱心に聞き入る参加者】

なしのジョイント栽培研修会を開催しました！

【須賀川農業普及所】

近年、須賀川農業普及所管内では日本なしの樹の老木化とそれに伴う生産量の減少が問題となっているため、早期に収量を確保できるジョイント栽培の導入推進と導入者の栽培技術の向上を目的として、8月2日に栽培研修会を須賀川市・鏡石町現地ほ場において開催しました。研修会では、担当者がジョイント栽培の導入メリット、栽培管理のポイント等について説明を行った後、参加者と「平棚ジョイント仕立て」及び「ジョイントV字トリス仕立て」の果実肥大等の状況確認を行いながら、意見交換を実施しました。



【意見交換】

8月15日時点で、当普及所管内のジョイント栽培の導入状況は、生産者9名、導入面積142aとなっており、今後もなしのジョイント栽培の導入と栽培技術の向上を図ってまいります。

頑張る農林業者

なかやま とも
中山 智さん（郡山市）

【農業振興普及部】

会社員として23年間勤めた中山さん。米作りに加えて新たな作物にもチャレンジしたいと考えていた父親の遺志を継ごうと、平成30年に郡山市園芸振興センターで1年間、園芸の基本を学びました。その後就農し、母親と一緒に、水稻の他に花き栽培を始めました。

現在、郡山市片平町のパイプハウス2棟（4a）で、お盆とお彼岸用のトルコギキョウと秋冬出しストックを栽培しています。当初は、ハウスの温度調整や水管理に苦労されましたが、毎年一つずつ問題点を解決し、生産物の品質は年々向上しています。



【トルコギキョウと中山さん】

中山さんは花きを市内の直売所と市場に出荷しています。栽培管理を基本に忠実にかつ丁寧に行い育てた中山さんのトルコギキョウ・ストックは、きれいで花持ちも良く、直売所ではとても好評です。



各部・各普及所の紹介

企画部

企画部は、部長をはじめ地域農林企画課4名、指導調整課5名の計10名で業務を行っています。

【地域農林企画課】

県中産農林水産物の安全性やおいしさを消費者の皆さんにお伝えしようと、さまざまなイベントや頑張っている事業者を応援する事業を行っています。その他、地産地消や食育、地域産業6次化やグリーン・ツーリズム等による農山村の活性化を支援しています。

【指導調整課】

優良農地の確保のため、「農業振興地域の整備に関する法律（農振法）」に基づき市町村が定める「農業振興地域整備計画」の見直しや、農地法に基づく農地転用許可を行っています。また、農業協同組合や土地改良区等の団体検査、農林水産物の適正な食品表示の推進を担っています。

職員は皆気さくで話しやすい職員ばかりですので、何かありましたらお気軽にご相談ください。



【おいしい ふくしま いただきます！キャンペーン】



【食品表示法研修会】

新規採用職員の紹介

今年4月に当事務所に配属された新規採用職員を紹介します！

4月から須賀川農業普及所に配属されました、橋本直樹と申します。^{はしもと}
^{なおき}

担当は野菜特産です。現在は、頼れる先輩方に教わりながら園芸作物の栽培指導会や現地巡回を行っています。技術職員としてまだまだ知識不足であるため、たくさん現場に足を運び、農家さんのお力になれるように学んでいきたいです。

先日、当普及所に販売案内があった「いしかわ牛」を購入し、いただきました。肉のうまみ、そして脂の甘みに感動しました。仕事を通して、福島のおいしい農産物、畜産物に出会えるきっかけがあり、農業職になって良かったと日々実感しております。これからもよろしく願います。



お知らせ

6月2日及び3日のひょう害に係る支援策について

【農業振興普及部・田村農業普及所・須賀川農業普及所】

6月2日と3日の降ひょうにより、県中地域7市町村で農作物の被害が発生しました。なしやりんご、もも、キュウリなどの農作物の被害額は約5億9千万円（当事務所管内）に上り、とりわけ果樹では昨年4月の凍霜害に続く甚大な被害となりました。

県では、被害を受けた農業者の皆さんが営農をしっかりと継続できるよう、下記のとおり支援対策を実施しています。

具体的な内容は、下記担当部署へお気軽にご相談ください。

【支援対策概要】

	支援の内容	詳細
技術支援	◆技術情報の発行 ◆技術対策巡回指導	・病虫害防除対策、樹草勢維持及び回復対策など
財政支援	◆農業等災害対策事業 (県補助率 1/3 以内)	・病虫害の発生を防ぐための農薬購入費への助成 ・樹草勢を回復するための肥料購入費への助成 ・野菜の植え直しのための種子や種苗の購入費への助成
	◆果樹ひょう害対策緊急支援事業 (補助率：定額(1万9千円/10a))	・追加で必要となる管理作業に係る費用への助成 (追加の摘果、追加の防除など)
金融支援	◆農家経営安定資金 (令和4年ひょう災害資金)	・被害を受けた農業者が経営の維持安定を図るための資金貸付 (限度額3百万円以内、利率0.5%以内)

【担当部署】

農業振興普及部農業振興課 電話：024-935-1308

「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン 県中地方特産品等プレゼント(第2期)を実施中です！

【企画部】

県産農林水産物のおいしさや安全性をPRし、消費拡大と地産地消を推進するため、当事務所管内の常設直売所21箇所において、お客さまを対象としたプレゼント企画を実施しています。第1期応募期間(7/5～8/4)では、たくさんの御応募をいただきありがとうございました。第2期も現在、実施中ですので、皆様奮ってご応募ください！

(1) 応募期間

第2期 令和4年8月30日(火)～9月29日(木)

(2) 応募方法

対象直売所又は郡山合同庁舎入口に備えてある応募用チラシ等に、お買い物時のレシート又は領収書の原本を貼付け、当事務所企画部に郵送又は持参、対象直売所のうち応募箱が設置されているところは、応募箱に投函し



【プレゼント(詰合せ)イメージ】

てください。

(3) 景品

抽選で各期 30 名、計 60 名の方に「県産農産物等詰め合わせ」を贈呈するほか、管内 4 方部（各方部 1 店舗以上）でお買い物をいした方にはもれなく「6 次化商品等」をプレゼントします！

※チラシは下記HP又は二次元コードからもダウンロードできます。

対象直売所はチラシの裏面に掲載がありますので、是非御覧ください。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36220a/ki-r4oisiicampaign.html>



YouTube 動画掲載はじめました！

【企画部】



新しい農林水産業振興計画の基本目標『『もうかる』『誇れる』共に創るふくしまの農林水産業と農山漁村』の実現に向けて、令和 4 年度新たに「福島県農林水産部 FA 宣言 (Fukushima, Forestry, Fishery, Appeal, Agriculture)」を行い、戦略的な情報発信を行うこととしました。

県産農林水産物や農山漁村の魅力、各種行事、震災後の復興・風評払拭に向け懸命に努力されている生産者などを、職員自らが直接取材し、動画により情報発信することで、県産農林水産物のおいしさや「福島ならではの」の魅力をお伝えします。

当事務所で作成した動画が、農林水産部公式 YouTube チャンネル「1400 のネタばらし」に掲載されていますので、職員が自由な発想で企画した動画を是非御覧いただき、チャンネル登録をお願いします。



【当事務所作成動画「馬のしろかき」】

県農林水産部公式 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCqP88J0qCub5659DrEfz2sw>

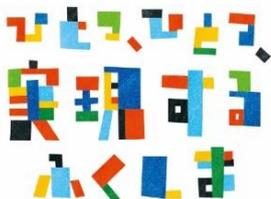
二次元コードからも御覧いただけます



編集後記

夏から秋に向かうこの時期は、スーパーや直売所においしい果物が続々と並びますね。私は先日、県産のなし（幸水）を食べました。甘くてみずみずしく、毎日食べたいくらいおいしかったです。本ニューストップ写真のキャラクターは、ひょう害にあったワケありなしを救うために当事務所で誕生したなしのキャラクターです。キャラクター名は募集中！良いお名前があれば企画部までお寄せください！

(編集担当)



お問い合わせはこちら

【編集・発行】

福島県県中農林事務所 企画部 地域農林企画課

〒963-8540

郡山市麓山一丁目 1 番 1 号

ホームページ <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36220a>

TEL 024-935-1510 FAX 024-935-1314

